



# 小城市立歴史資料館 \* 中林梧竹記念館だより

## 土生遺跡出土木製品が小城市重要文化財に指定されました

土生遺跡は、昭和46(1971)年8月に偶然発見された弥生時代中頃(約2,000年前)の遺跡です。これまでに20次にわたる発掘調査が行われ、朝鮮半島に関わりのある土器や農耕具をはじめとした豊富な木製品、青銅器の鑄型が弥生土器とともに出土しています。このことは、外来系の文化と在地の弥生時代の文化が交わって、大集落として発展した土生遺跡の性格をよく表しています。

出土した木製品のうち、保存状態が良好な鋤や鋤などの農耕具、柄杓や匙などの生活用具、扉や柱などの建築部材、井戸杵や祭祀具など計85点が今回指定されました。

これらは、国内において初期農耕社会が確立した弥生時代中頃の様子をうかがい知ることのできる貴重な文化遺産と位置づけられ、永く未来へ継承していくべき資料です。

またぐわ  
「又鋤」▶  
刃先が三つ又に分かれた鋤



◀一本の木をくりぬいて作った井戸杵

## 令和4年度 古文書講座の受講生を募集します

◆日程 毎月第4土曜日 14時～ ◆場所 歴史資料館 研修室 ◆資料代 1,000円

令和4年度は引き続き、文政7年小城藩主が長崎を往復した記録『長崎御往来日記』をテキストに使用します。

## おぎの歴史探検隊

### 吉田茂を陰で支えた辰巳栄一(その3)

英米との戦争が始まり、辰巳栄一は昭和17(1942)年に日本に帰国します。次の任務は、東部軍参謀長という帝都防衛の責任者でした。ロンドン大空襲の体験をもとに、すぐに辰巳は東京への爆撃にそなえ、学童疎開の必要性を首脳部に訴えます。

ところが、陸相の東條英機がウンと言わない。辰巳は佐賀中学の同窓で東京府知事の松村光磨に相談、ついに大政翼賛会が動き東條が折れて、学童疎開が実現します。これにより主要都市の学童、計40万人が救われました。辰巳の大きな功績です。

しかし昭和20(1945)年、日本は連合国に降伏。陸軍は解体され、辰巳も公職追放の身に…。そんな彼を起用したのは、首相となった吉田茂でした。吉田は英国以来の盟友、白洲次郎をGHQとの交渉役

に、辰巳を私的軍事顧問に命じたのです。辰巳は吉田を陰で支え、警察予備隊(後の自衛隊)の創設に尽力します。昭和29(1954)年、吉田政権が終り辰巳も任務を離れますが、二人の交友関係は終生続きました。

辰巳栄一は昭和63(1988)年2月17日に93歳で永眠。辰巳家の墓は現在、小城町松尾の「傳心庵」から移され、東京元麻布の「賢崇寺」にあります。(終)

小城郷土史研究会/著



◀鍋島家と縁の深い賢崇寺

◆開館時間 9時～17時 ◆休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索  
【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132